

## 令和4年度 学校総合評価

## 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校の生徒の端正で優しく、さわやかでひたむきに何事にも取り組む真面目さと素直さを大切にしながら、積極的に自己の将来を切り開いていこうとする自信や意欲を培うべく重点課題に取り組んだ。

## (1) 学習活動

今年度も、生徒自身が能動的な「学び」ができる学習環境を構築することを目標に、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業が実践され、タブレットなどのICT機器を活用した互見授業も実施した。全ての教科で互見授業を行い、自分の教科だけではなく他教科の授業を見学し、情報交換を行い、学校全体で授業改善に努め成果が得られた。授業の評価として、互見授業週間中に生徒に実施した授業アンケートをもとに、「アクティブラーニング」を取り入れた授業の分析・改善に取り組んだ。すべての項目で肯定的な回答比率を高めることができ、昨年度を上回ることができた。

## (2) 学校生活

今年度も、保護者の協力を得ながら規範意識の高揚と規律正しい学校生活の確立に努めた。携帯電話の校則違反のべ件数設定目標と向き合うにあたり、生徒会役員や校風委員会による主体的な「学校のネットルールづくり」に取り組んだり、それを受けて統一HRを利用して生徒に学校ネットルールを考えさせるなど、確実な規範意識向上に取り組んだ。

携帯電話に係わる校則違反件数が昨年より減少し、数値目標を達成した。一方、学校ネットルールについては一部で守られていない項目もあった。この結果をしっかりと受け止め、生徒がネットトラブルに関わることにならないよう、今後、保護者と学校の協力体制を充実し、主体的に規範意識を高められる方策を見直し推進しなければならない。

## (3) 進路支援

個々の進路意識を高めさせるために、学年との連携を強化し、進路指導委員会の活用、学部・学科研究会、合格教室等に取り組み、進路指導の充実を図った。

12月末現在で、進路希望調査における校種別の第一志望校で、80%以上の生徒が進路決定し、目標を達成した。また、担当学年外の教員にも協力を得て、小論文、面接の指導を行い、大学入試共通テストを利用しない学校推薦型選抜の結果も目標を上回った。今後、さらに共通テストでしっかりと得点できる確かな学力をつけさせて、国公立大学の学校推薦型選抜の合格率を上げられるよう、指導方法の充実を図り、早い段階から取り組んでいきたい。

## (4) 特別活動

今年も新型コロナウイルス感染症の影響で、地域との交流やボランティア活動など満足にできなかったが、感染対策を講じながら可能な限り他の学校行事を実施することができた。

次年度も、ICT機器を取り入れてできる様々な活動を模索しながら、学校と地域との交流を活発化させることに結びつく行事を企画・運営し、本校教育の特徴である「福祉マインド」が育つ機会を生徒達に提供していきたい。

## (5) その他

図書委員自らの活動によって、生徒たちの図書に対する意識が向上しており、読書に向き合う時間が増加しつつある。図書館を学習の場としての意識をより高めていく必要がある。

また、本校でもICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実が進んできている。これまでのタブレット端末の活用とその効果について検証し、今後必要なICT環境の構築、運用、利活用について整備していきたい。

## 7 次年度へ向けての課題と方策

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和が進み日常生活が徐々に戻りつつある中で、昨年度に引き続き「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の推進、改善」、「規範意識の高揚と規律正しい学校生活の確立」、「より高いレベルの進路実現の促進」の各課題を重点に取り組んだ。

生徒が「受験力」を身につけるために、教員が実践すべき「進学実績の向上に結びつける」指導の要が「モチベーション」、「基礎学力」といった「生徒の力」を引き出して伸ばすことであることを再認識し、また新課程の成績評価に関する方法・分析についても検討をより深めていく必要がある。次年度も本校の継続課題として、重点課題に対して成果を残せるよう、粘り強く取り組んでいきたい。

今年度の重点課題（学校アクションプラン）

		令和4年度 アクションプラン	教務部																																																
重点項目	学習活動																																																		
重点課題	「主体的・対話的で、深い学び」を実現する授業の推進、改善。																																																		
現 状	「主体的・対話的で、深い学び」を目指した授業が実践され、生徒にも少しずつ浸透してきている。今後は、さらに生徒が協働して学ぶことができる環境作りを目指し、より能動的・意欲的に取り組もうとする姿勢を育てること（授業の質）が課題である。																																																		
達成目標	「主体的・対話的で、深い学びに関するアンケート項目の質問」において、肯定的回答を80%以上にする。																																																		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教科で公開授業を行い、担当する教科の授業と他教科の授業を見学する機会を設ける。見学者からの感想やアドバイスと教科部会での話し合いを通して情報交換を行い、学校全体の授業改善に努める。</li> <li>タブレットを効果的に使用した授業の実現に積極的に取り組み、ICT教育の推進に努める。</li> <li>「授業・学習に関するアンケート」の「主体的・対話的で深い学び」に関する生徒の回答から、授業分析や改善を行い、授業の質の向上に努める。また、考查問題に、高い思考力を求める問題を全体の10%以上出題し、どの程度「深い学び」が実現できているかを分析し、より深い学びの実現を目指す。</li> </ul>																																																		
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の互見授業は総数で51回実施した。授業を見学して授業改善に努めることが定着してきていると思われる。</li> </ul> <p>【アクティブラーニングに関するアンケート項目・集計】 肯定的回答比率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.授業では毎回生徒自身が考えたり、工夫したり、意見・考えを発表する機会がある。</td> <td>94.7</td> <td>92.2</td> <td>91.0</td> <td>86.6</td> </tr> <tr> <td>2.他の生徒と意見・考えを話し合ったり、知識や技術を身に付けるために協力して練習したり、質問を出し合ったりする機会がある。</td> <td>93.9</td> <td>90.3</td> <td>85.3</td> <td>83.0</td> </tr> <tr> <td>3.先生からの質問や練習・演習、小テストや課題、ペアワークやグループワーク等から、積極的に学び・取り組む姿勢が身に付く授業内容である。</td> <td>94.5</td> <td>92.4</td> <td>88.9</td> <td>84.7</td> </tr> <tr> <td>4.困っている生徒に教えたことがある。</td> <td>74.4</td> <td>73.7</td> <td>67.9</td> <td>67.3</td> </tr> <tr> <td>5.分からないところやできないところを、他の先生や生徒に質問（相談）する。</td> <td>85.4</td> <td>83.1</td> <td>77.7</td> <td>78.1</td> </tr> <tr> <td>6.グループ（ペア）活動では、相手も自分も身に付くように積極的なコミュニケーションをとる。</td> <td>91.5</td> <td>87.2</td> <td>84.3</td> <td>78.7</td> </tr> <tr> <td>7.グループ（ペア）活動では、メンバーと協力しながら積極的に取り組み、成果をあげている。</td> <td>91.5</td> <td>86.7</td> <td>83.4</td> <td>79.1</td> </tr> <tr> <td>8.授業では、意欲的に発言したり、積極的に活動や練習に参加している。</td> <td>86.3</td> <td>83.3</td> <td>57.8</td> <td>72.0</td> </tr> </tbody> </table>						R4	R3	R2	R1	1.授業では毎回生徒自身が考えたり、工夫したり、意見・考えを発表する機会がある。	94.7	92.2	91.0	86.6	2.他の生徒と意見・考えを話し合ったり、知識や技術を身に付けるために協力して練習したり、質問を出し合ったりする機会がある。	93.9	90.3	85.3	83.0	3.先生からの質問や練習・演習、小テストや課題、ペアワークやグループワーク等から、積極的に学び・取り組む姿勢が身に付く授業内容である。	94.5	92.4	88.9	84.7	4.困っている生徒に教えたことがある。	74.4	73.7	67.9	67.3	5.分からないところやできないところを、他の先生や生徒に質問（相談）する。	85.4	83.1	77.7	78.1	6.グループ（ペア）活動では、相手も自分も身に付くように積極的なコミュニケーションをとる。	91.5	87.2	84.3	78.7	7.グループ（ペア）活動では、メンバーと協力しながら積極的に取り組み、成果をあげている。	91.5	86.7	83.4	79.1	8.授業では、意欲的に発言したり、積極的に活動や練習に参加している。	86.3	83.3	57.8	72.0	
	R4	R3	R2	R1																																															
1.授業では毎回生徒自身が考えたり、工夫したり、意見・考えを発表する機会がある。	94.7	92.2	91.0	86.6																																															
2.他の生徒と意見・考えを話し合ったり、知識や技術を身に付けるために協力して練習したり、質問を出し合ったりする機会がある。	93.9	90.3	85.3	83.0																																															
3.先生からの質問や練習・演習、小テストや課題、ペアワークやグループワーク等から、積極的に学び・取り組む姿勢が身に付く授業内容である。	94.5	92.4	88.9	84.7																																															
4.困っている生徒に教えたことがある。	74.4	73.7	67.9	67.3																																															
5.分からないところやできないところを、他の先生や生徒に質問（相談）する。	85.4	83.1	77.7	78.1																																															
6.グループ（ペア）活動では、相手も自分も身に付くように積極的なコミュニケーションをとる。	91.5	87.2	84.3	78.7																																															
7.グループ（ペア）活動では、メンバーと協力しながら積極的に取り組み、成果をあげている。	91.5	86.7	83.4	79.1																																															
8.授業では、意欲的に発言したり、積極的に活動や練習に参加している。	86.3	83.3	57.8	72.0																																															
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートを参考にしながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて改善に取り組んでいる。</li> <li>タブレットなどのICT機器を利用した授業改善に努めている。</li> </ul>																																																		
評 価	A	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業が改善されていることがアンケートの結果からわかる。また、多くの教員がタブレットなどのICT機器を効果的に使用した授業の実現に積極的に取り組んでいる。																																																	
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートのパーセンテージが年々上がっており、授業が主体的・対話的になってきていることがわかる。授業を主体的に学ぶことは、学習の成果を上げる上で非常に重要である。また、深い学びは知識を豊かにし、実践力を養う模試や、受験本番での解答力向上につながるはず。</li> <li>よい授業とは何かを常に追い求めながら取り組んでいる八尾高校は非常に高く評価できる。これからもこの姿勢を貫いてほしい。</li> </ul>																																																		
次年度へ向けての課題	With コロナ時代であり、学校教育も変わることが求められる。子供の力を最大限に引き出し、最適化された学びを実現させるためにもICT機器をうまく活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、さらなる取り組みを目指したい。																																																		

（評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 アクションプラン		生徒指導部
重点項目	学校生活	
重点課題	規範意識の高揚と規律正しい学校生活の確立を目指す。 ～携帯電話・スマートフォン使用に関する生徒の主体的な取り組み～	
現 状	<p>・携帯電話（スマホ）の校則の違反件数が、令和元年度は24件、令和2年度は34件、令和3年度は25件であった。本校では、「携帯電話持ち込み許可願」を提出し、電源を切って鞆に入れる約束で携帯電話の持ち込みを許可している。しかし、昼休み、放課後、部室などで使用している生徒がいるのが現状である。個人情報の保護 や SNS の危険性に関する認識が薄いと思われる。</p> <p>・家庭での携帯電話（スマホ）の使用時間が長く、昨年度のアンケート結果から家庭 で3時間以上の使用が全校生徒の35%、休日75%となっている。これらのこと が学習・睡眠時間の妨げになっており、体調を崩す原因となっていると思われる。</p>	
達成目標	① 学校ネットルール（1学期統一 HR で決定）を守れたと答える生徒の割合を70%以上とする。	② 携帯電話等（スマホ）の校則違反ののべ件数を15件以下にする。
方 策	<p>・統一 HR を利用して生徒に学校ネットルールを考えさせ、生徒が自主的・主体的に携帯電話（スマホ）を使用する態度を身につけさせる。</p> <p>・学期末にアンケートを実施し、学校ネットルールが守られているか、使用状況・危険性の認識を確認し、次の指導に反映させる。</p> <p>・各学年、生徒指導部の職員で昼休みに教室・学校内を巡視し、生徒の様子を確認し指導する。</p> <p>・全校集会や学年集会で携帯電話の過度な使用は生活や体調への支障をきたすことや、SNS の危険性について話し、規範意識を高める指導をする。また、1年生には「携帯電話ネットトラブル防止講話」を実施する。</p> <p>・校風委員・生徒会が中心となって、注意喚起を行う。</p>	
達成度	<p>① 八尾高校携帯電話・スマートフォン使用3原則をしっかりと守れた生徒の割合 「1日の使用時間は2時間まで」・・・18.8% 「SNSで人の傷つく言葉は書かない」・・・98.3% 「歩きスマホをしない」・・・78.5%</p> <p>② 校内ルール違反件数は1学年10件、2学年4件、3学年1件、合計15件</p>	
具体的な取組状況	<p>・統一HRで携帯電話の使用について話し合い、学校ネットルール(八尾高校携帯電話・スマートフォン使用3原則)を決定した。</p> <p>・文化祭（高啼祭）で校風委員が携帯電話の使用について発表した。侮辱罪・名誉毀損罪についても触れ、携帯電話を使用する際には責任が伴うことを伝えた。</p> <p>・1学年の生徒を対象に「携帯電話・ネットトラブル防止講座」を実施した。</p> <p>・携帯電話校内ルール違反者には、反省文・先生との面談・奉仕活動など、違反を繰り返す毎に反省を深める指導を行っている。生徒自ら行動を振り返り、自己反省できるような指導を心がけている。また、指導について保護者に説明し、協力を得ている。</p>	
評 価	B	<p>・学校ネットルール「1日の使用時間は2時間まで」を守れた生徒が少ない。</p> <p>・携帯電話校内ルール違反件数は昨年度より10件少なくなった。教員の声かけ、反省を促す指導によって生徒が守ろうという意識が出てきていると思われる。</p>
学校評議員の意見	<p>・高校生の規範意識はスマホとの付き合い方に凝縮されている。スマホ使用のコントロールは、生活のコントロールにつながっている。今後とも、モラルの問題も含めた教育を期待したい。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>12月のアンケートで「1日の使用時間は2時間まで」を守れなかった生徒が80%となった。コロナ禍もあり、携帯電話の依存が懸念される。依存から睡眠不足になり、体調を崩して学校を欠席しているのではないかと考える。生徒が携帯電話の使い方を自ら考え使用する自己指導能力を高めていく指導が課題である。</p>	

（評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

今年度の重点課題（学校アクションプラン）

	令和4年度 アクションプラン	進路指導部																																										
重点項目	進路支援																																											
重点課題	より高いレベルでの進路実現の促進																																											
現 状	(1) 昨年度卒業生の9月進路希望調査時の第一志望と実際の進路決定状況は下の表の通りで、校種別の第一志望達成は147名中127名の約86%であった。一昨年度79%に対し達成度は高まっているが、目標設定が遅れ志望を下げる傾向も見られるため、見合った進路目標が設定されているかどうかを見る必要がある。なお、本年4月の進路希望調査の状況は、大学112名、短大17名、専門16名、就職1名である。																																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>9月志望</th> <th>大学進学</th> <th>短大進学</th> <th>専門進学</th> <th>その他</th> <th>就職</th> <th>志望計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学</td> <td>83名</td> <td>7名</td> <td>3名</td> <td>5名</td> <td>0名</td> <td>98名</td> </tr> <tr> <td>短大</td> <td>0名</td> <td>21名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> <td>21名</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td>2名</td> <td>2名</td> <td>23名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> <td>27名</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>0名</td> <td>1名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>進学先計</td> <td>85名</td> <td>31名</td> <td>26名</td> <td>5名</td> <td>0名</td> <td>147名</td> </tr> </tbody> </table>		9月志望	大学進学	短大進学	専門進学	その他	就職	志望計	大学	83名	7名	3名	5名	0名	98名	短大	0名	21名	0名	0名	0名	21名	専門	2名	2名	23名	0名	0名	27名	就職	0名	1名	0名	0名	0名	1名	進学先計	85名	31名	26名	5名	0名	147名
	9月志望	大学進学	短大進学	専門進学	その他	就職	志望計																																					
	大学	83名	7名	3名	5名	0名	98名																																					
	短大	0名	21名	0名	0名	0名	21名																																					
	専門	2名	2名	23名	0名	0名	27名																																					
	就職	0名	1名	0名	0名	0名	1名																																					
進学先計	85名	31名	26名	5名	0名	147名																																						
(2) 昨年度卒業生における国公立大学学校推薦型選抜の結果は、出願15名、合格6名、合格率40%であり、一昨年度の69%から大きく低下した。大学入試における学校推薦型選抜の割合は増加傾向にあり、本校でも合格者の増加を目指し、学校推薦型選抜について研究していく必要がある。																																												
達成目標	(1) 9月実施の進路希望調査における校種別の第一志望において、80%以上の生徒が目標を達成すること。（生徒一人ひとりに見合った進路目標の設定） (2) 国公立大学の学校推薦型選抜の合格率65%以上を目指す。																																											
方 策	①学年との連携 ・進路講話や学年集会などを通して、進路意識の高揚や学習意欲の向上を図る。 ・3学年の進学指導方針の立案・計画・実施の支援を積極的に行う。 ②進路指導委員会の活用 ・進路指導の問題点を把握し、とるべき方策を学校全体の共通理解として提示し、問題解決を図る。必要に応じて他の分掌とも連携する。 ③学校推薦型選抜指導の充実 ・学年外の教員も含め、全教職員協力のもとで指導に当たる。 ・使用テキストや指導方法を記録・保存し、有効な指導法を次年度の指導に生かす。																																											
達成度	・本年9月の進路希望調査の状況は大学114名、短大12名、専門18名、就職2名である。 ・3月10日現在の進路決定者は、大学71名、短大19名、専門23名、その他2名、就職1名の計115名（全体の78.8%）であり、校種別の第一志望達成は115名中96名の83.5%であった。 ・大学入学共通テストを利用しない国公立大学学校推薦型選抜の結果は、出願12名、合格10名、合格率83.3%であった。																																											
具体的な取組状況	・進路意識の高揚や学習意欲の向上を図るため、学年と連携して取り組んだ。 ・学校推薦型選抜の指導者や内容を吟味し、志望理由書、小論文や面接等の指導を充実させた。																																											
評価	A	・12月末現在の進路決定者については、目標をクリアした。 ・国公立大学学校推薦型選抜の結果が目標を上回った。																																										
学校評議員の意見	取り組んできた成果が出て、大変評価できる。日頃から、合格教室をはじめ、いろいろな機会を通じて学習時間の確保と学習習慣を身につけさせることが大切なので、今後も粘り強く取り組ませよう継続して指導してほしい。																																											
次年度へ向けての課題	・大学入学共通テストでしっかりと得点できる確かな学力をつける。 ・国公立大学の学校推薦型選抜だけでなく、総合型選抜についても研究する。																																											

（評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

今年度の重点課題（学校アクションプラン）

	令和4年度 アクションプラン	特活部
重点項目	コロナ禍でも行える特別活動について考える	
重点課題	コロナ禍にあつて、感染防止に十分な配慮を行ったり、情報通信技術機器を活用したりするなどして、学校行事や生徒会活動、地域との交流を新しい形で行っていく。そして、様々な活動を通して、充実した高校生活を送らせるとともに、人間的な成長を図る。	
現 状	<p>昨年は、コロナ対策を講じながら、体育大会やハートフルクリスマスなどの学校行事を行うことができた。制約はあったものの、生徒は学校行事を行うことで学校生活にメリハリと活気を得て、充実した高校生活を送ることができたようである。今後は、コロナ感染防止対策を行いながら、学校行事や実習、イベント参加、ボランティア活動などを行い、活動の中止や縮小がされないように配慮する。</p> <p>また、福祉コースでは、社会福祉施設とリモートでの交流を数回実施したり、部活動紹介動画を生徒自身が作成し、校内放送で放映したりと、ICT機器を活用した新たな試みも行ってきた。さらに、ICT機器を利用した活動の幅を広げていく。</p>	
達成目標	コロナ感染防止策を講じながら、積極的に学校行事や地域交流を行い、その活動の生徒満足度を80%以上にする。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染防止策を検討し、充実した活動を行っていく。</li> <li>・情報通信技術機器を活用し、様々な交流の方法を模索して、地域の社会福祉施設などとの交流を実施する。</li> <li>・これまでの行事ややり方にとらわれることなく、新たな試みを取り入れて、今の時代にあった活動をしていく。</li> </ul>	
達 成 度	生徒の満足度（アンケートで「とても満足した」「満足した」と回答した割合） 体育大会 91.7%（感染防止対策が十分だった） 高啼祭 92.8%、ハートフルクリスマス 95.0%	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染防止策を講じながら、学校行事を行うことができた。体育大会は、昨年同様、団席や招集場所に配慮し、応援合戦や競技についても生徒会を中心にこれらの内容や実施方法を工夫した。</li> <li>・高啼祭では、一般公開を行い大盛況であった。また、各クラスが制作したクラス動画は、クオリティが高く、感心する出来栄であった。生徒の違った一面を見ることができた。</li> <li>・ハートフルクリスマスは、ほぼ以前のように行うことができた。参加した生徒にとってはとても良い経験となる行事である。参加していない生徒にも、この行事の良さを還元できるとよい。</li> <li>・地域との交流やボランティア活動の機会がまだ少ない。また、生徒の参加意欲はそれほど高くないように思われる。</li> </ul>	
評 価	B	多くの学校行事を実施することができ、生徒もおおむね満足している。しかし、地域との交流やボランティア活動などは、ほとんど行われなかった。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだまだ感染状況は油断できないが、少しずつ従来の日常が戻りつつある中で、さまざまな工夫により行事が可能な限り実施できたことは大変喜ばしいことである。今後も、諸行事に参加し多くの思い出を作れるよう、できることを思いっきり取り組ませてほしい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	次年度も引き続き、コロナ感染防止策を講じながら、学校行事を行っていきたい。コロナ禍以前と同じものを求めるのではなく、ICT機器の活用や行事の内容の見直しを図り、新たな活動を模索していきたい。また、福祉マインドを育てるための良い機会として、地域との交流やボランティア活動を活発化させていきたい。	

（評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 アクションプラン		教育情報部
重点項目	図書館利用の推進と学習用タブレットの円滑な運用	
重点課題	図書館及び情報機器の円滑な活用を促す	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室は本の貸し出しのみでなく、落ち着いた雰囲気での学習の場としても定着している。しかし図書館をあまり利用したことのない生徒も多い。</li> <li>・学習用タブレットや教室のプロジェクターが整備され、情報機器に関するハード面は整いつつある。しかし、運用面で円滑に進まないことが多い。</li> </ul>	
達成目標	①貸出冊数を 1000 冊以上とする。	②学習用タブレットの運用環境を整備し、様々な場面での活用を増やす。（数値目標はなし。年度末に新しい活用方法の事例を集約する。）
方 策	これまでと同じように、さまざまな掲示物や図書だより等の発行を行い、読書に対する興味関心をこれまで以上に喚起する。	学年や他分掌と連携し、タブレット運用についての課題を集約したり、新しい利用方法について発案や調整を行う。
達成度	貸出冊数 1000 冊を達成しなかった。現在、貸出冊数は 861 冊である。	4 月から 1 月までで、google classroom を利用している教員は回答者のうちの 81%。日常的に使用されている。
具体的な取組状況	月 1 回の図書便りを図書委員の生徒で分担して作成した。図書便りは classroom で試配信した。図書便りで紹介されている図書を図書室前で陳列して手に取りやすくした。文化祭では図書委員会での紹介ポップを作成し掲示した。	校内での ICT 使用状況アンケートを実施し、本校での使用状況を集約した。タブレットの保守や点検についても、適宜生徒に呼びかけて紛失や破損に注意するよう促した。教員が教室で使用できるように、ケーブル類を購入し、使いやすい環境を整えた。
評 価	<b>B</b> 貸出冊数は達成できなかったが、図書委員の活動によって、生徒たちの図書に対する意識が向上した。	<b>B</b> タブレットの使用が教員、生徒ともに日常化している。しかし、生徒の使用の場面や方法が適切かどうか管理できていない面がある。
学校評議員の意見	生徒たちで取り組んで得た成果は、生徒たちの自信につながる。今後も生徒たちの活動が成果につながるよう指導をお願いしたい。	学校での日常的なタブレット活用が浸透してきた年だったと思う。ますますこれから様々な場面での活用が増えると思うが、充実した活用となるよう指導をお願いします。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒主体の図書便り作成や図書館運営を継続する。</li> <li>・図書館の学習の場としてこれまで以上に利用できるよう整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習用タブレットの使用方法を適宜見直す。</li> <li>・有効な利活用方法に関する情報交換、収集を継続する。</li> </ul>

（評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）